

国王尚真の、進貢謝恩のため正議大夫鄭玖等を遣わす符文

(一四九五、八、一六)

琉球国中山王尚真、進貢、謝恩等の事の為にす。

今、特に正議大夫鄭玖を遣わし、長史蔡賓・使者闍那等と共に、表箋文各一通を齎捧せしむ。仁字号海船一隻に坐駕し、硫黄二万斤・馬一十五匹・鍍金銅結束紅漆靶鞘裘刀一十把・鍍金銅結束線紮靶螺鈿鞘腰刀一十把・象牙一十三条共に重さ二百斤・檀香二百斤・束香二百斤・丁香三百斤を装載し、京に赴き御前に進謝し、仍お礼部に赴き告稟して進収せしむる外、茲の論遣を承くれば、途に在りて遅滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

正議大夫一員 鄭玖

使者三員 安丹惹 達志每 馬仁

都通事一員 程璉

人伴二十二名

国王附搭の蘇木三千斤・胡椒一千斤・番錫一千二百斤

弘治八年(一四九五)八月十六日

右の符文は正議大夫鄭玖及び都通事程璉等に付し、此れに

准ぜしむ

謝恩等の
事の為にす 符文

注*この入貢については『明実録』弘治九年四月丙戌の条に記事がある。

1-24-12

国王尚真の、皇太子への進貢謝恩のため長史蔡賓等を遣わす符文(一四九五、八、一六)

琉球国中山王尚真、進貢、謝恩等の事の為にす。

今、特に正議大夫鄭玖を遣わし、長史蔡賓、使者闍那・馬佳尼等と共に、表箋文各一通を齎捧せしむ。智字号海船一隻に坐駕し、硫黄二万斤・馬一十五匹・鍍金銅結束紅漆靶鞘裘刀六把・鍍金銅結束線紮靶螺鈿鞘腰刀六把・象牙八条共に重さ一百斤・檀香一百斤・丁香二百斤・束香二百斤を装載し、京に赴き皇太子殿下に進謝し、仍お礼部に赴き告稟して進収せしむる外、茲の論遣を承くれば、途に在りて遅滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

長史一員 蔡賓

使者三員 沙普魯 馬成 麻參路

通事一員 蔡明

人伴二十一名